

低温に対する農作物被害防止対策

令和5（2023）年1月20日

下都賀農業振興事務所

気象庁1月20日5時発表の天気予報によると、25日頃から最低気温が低下すると予想されています。さらに26日は県南の最低気温が-6℃の予想となっており、それ以下に下がる可能性があります。事前の対策をお願いします。

I 事前対策

1 情報収集

(1) テレビやラジオ、気象庁ホームページ、とちぎ農業防災メールなど、幅広く情報収集を行なう。

・気象庁HP

https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=offices&area_code=090000

・とちぎ農業防災メール

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kisyousaigai/26nougyoubousaimail.html>

2 暖房機等の準備

- (1) 燃料の残量を確認する。
- (2) 暖房機の保守点検を行い、正常作動を確認する。
- (3) 温度センサーを点検する。
- (4) 送風ダクトを配置し、循環扇を利用する。

II 低温時の対策

1 ハウス

- (1) ハウス各部の損傷や緩み等を点検し、気密性を高める。
- (2) 制御装置の設定と正常作動を確認する。
- (3) 作物が生育中の場合は、保温対策としてビニル、保温マット等でトンネル被覆をするか、ベタがけ資材を被覆し、保温に努める。
- (4) ハウスサイドやカーテン裾を隙間無く確実に閉める。

2 野菜

(1) いちご

ア ハウスは夕方早めに閉め、ハウス内の保温に努める。

イ ウォーターカーテンハウスでは、夕方の稼働開始時間を早め、また、朝の稼働終了時間を延長し、温度の確保及び凍結防止に努める。

ウ ハウスのサイドビニルが凍結している場合は、換気時に無理な力がかかり、モーターやビニルの破損につながる可能性があるため、早急に氷凍結部分を除去してから換気を行う。

エ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。

オ ハウス内が多湿になると灰色かび病、菌核病が発生しやすくなるため、管理温度を低下させないように工夫しながら換気による除湿を行うとともに、適宜古葉を摘除する等ハウス内の環境維持に努め、病害予防のため殺菌剤を散布する。

カ 親株管理については、低温が心配される場合、ベタがけ資材等を用いて温度を保てるようにする。

(2) トマト

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、暖房機を積極的に稼働し地温の上昇に努める。
- イ 循環扇が導入されているハウスでは、温度差の解消や病害発生の予防のため、ハウス密閉時に稼働する。
- ウ ハウス内が多湿になると灰色かび病、疫病等が発生しやすくなるので、損傷した茎葉を摘除するとともに、病害予防のため天候の回復を待って、登録農薬を散布する。

(3) にら

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、1週間程度はやや高温管理とする。
- イ 白斑葉枯病、株腐細菌病等の予防のため、登録農薬を散布する。

(4) きゅうり

- ア 低温障害の程度が軽微な場合は、被害部分を切り取り草勢の回復を図る。

(5) アスパラガス

- ア 低温障害を受けて植物体が傷んだ場合は、速やかに切り取る。

3 果樹

- (1) 苗木や幼木は、主幹部に稲わらを厚く巻きつけるなど、防寒対策を徹底する。
- (2) 強い冷え込み後は、芽枯れや紫変色枝枯症等の発生が懸念されるため、枝の状態を確認しながら剪定作業を進める。
- (3) 根圏制御栽培は、かん水設備等の水抜きを再確認し、凍結による機材の損傷を防止する。

4 花き

(1) きく

- ア 低温障害を受けて花が傷んだ場合は廃作とし、次作の準備をする。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。

(2) ばら

- ア 低温障害を受けた花は速やかに切り取り、樹勢の回復を図る。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。
- ウ 樹勢が回復するまで、給液量や肥料濃度は抑え目にする。

(3) カーネーション

- ア 低温障害を受けた花は速やかに切り取り、草勢の回復を図る。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。

(注意)

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。